



Q3. 白血病にかかる前に献血について知っていましたか？

A3. 東京の高校では学ばないので、知らなかったです。献血もしたことありませんでした。知った時にはすでに献血ができない体になっていましたが、患者さんにはこういった人が多いと思います。そのため、献血ができる体は財産だと思っています。1つの血液パックにはたくさんの方が関わっているため大切にしていきたいです。



Q4. 今後はどのような活動をしていきますか？

A4. 闘病記を書いてみたいです。献血のイベントを通して、多くの方へ興味を持ってもらいたいです。



Q5. けんけつNEWSの読者と献血の呼びかけている人に伝えたいことはありますか？

A5. 足を運んでくれてありがとうございます。血液は患者にとって命そのものだから、本当にありがたいです。献血については理解がまだ広がっていないので、呼びかけでは「なぜ必要なのか」をしっかり伝えて、知識をつけることが大切だと思います。怖いと思っている人にも、献血ルームはリラックスできる場所なので、もっと気楽に行ってほしいです。



友寄蓮さん、  
ありがとうございました！！



★あいがとうの手紙が届きました  
～さいたま市 Sさん～

大学生の頃、よく大学のキャンパス内に献血カーが止まっているのを目にしました。当時の私は「注射は苦手だし、自分には関係のないことだから」と、献血カーを横目に素通りしていました。

そして、社会人としてこれから頑張ろうと希望を胸に働き始めた22歳の6月、悪性リンパ腫を発症しました。抗がん剤治療が始まると、髪は抜け落ち、突然襲ってくる吐き気、口内炎で食事は取れず、激しい頭痛、肺炎など様々な副作用に苦しみました。

また、赤血球・白血球・血小板の数が減少し、立ち上がるのはおろか起き上がることも辛い状況でした。それを助けてくれたのが輸血です。この病気を発症するまで「輸血は事故や大怪我をした人のためのもの」と思い込んでいた私は、まさか自分が輸血を受ける日が来るとは思ってもみませんでした。輸血を受けた次の日、身体と同時に心も軽くなり、みるみる元気になって自然と笑顔が溢れていくのが実感できました。

治療中は何度も何度も輸血をしました。みなさんが献血してくださった血液のおかげで私は今生きています。みなさんの血液は私の中で生きています。大学生の頃、「私には関係のないことだから」と献血に協力しなかったことを激しく後悔しています。献血をしてもそれがどのように使われているのかわからないからと敬遠している方がいるかもしれません。でもみなさんの献血のおかげで救われた命は私を含めたくさんあります。皆さんに助けていただいた命を大切にこれから返返しをしていきたいです。本当にありがとうございました。

献血後の  
検査成績通知書  
(青いガキ)に、  
友寄蓮さんからのメッセージ  
が書いてあるので  
見つけて  
くださいね♪



友寄蓮  
@ren\_tomoyose

### ★編集後記

新聞を読んでくださりありがとうございました。今回は「輸血を受けた方へのインタビュー！！」をテーマに現在彩の国けんけつ大使としても活躍している友寄蓮さんにインタビューをしました。

実際に輸血を受けていた方の話を聞くことでまた別の視点から献血について学ぶことができたのではないのでしょうか？

1年間けんけつNEWSを作らせていただいて、たくさんの人に読んでもらうことができ、うれしく思っています。私たちもより深く献血を学ぶ機会ができ、とても良い経験となりました。1年間ありがとうございました！



はげみになります！  
感想やリクエストはこちらまで！  
埼玉県赤十字血液センター総務課企画係  
st-kikaku@ktsk.bbc.jrc.or.jp



日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センター  
Japanese Red Cross Society

人間を教うのは、人間だ。Our world. Your move.

